

山形放送

| | |
|------|--------------------------|
| 活動名 | YBC アナウンサーによる読み聞かせ“お話の国” |
| 実施期間 | 令和6年10月～令和6年11月 |
| 実施回数 | 会場2回 |

【事業実施の成果・課題】

弊社イベント YBC ラジオフェスタのステージ上での読み聞かせは、これまでで一番規模の大きな読み聞かせとなりました。

子どもたちと保護者だけでなく、会場を訪れた幅広い年代の方に本の世界を楽しんでもらえました。さらには日ごろ耳にしているアナウンサーの朗読を目のあたりにすることでより放送への理解を深めていただけたのではないかと思います。

恒例となっている山形県立盲学校での読み聞かせは、私たちアナウンサーにとって楽しい時間です。音だけを頼りに、一人一人が想像を膨らませて集中して物語を感じてくれているのが良くわかります。また今回は学校からのリクエストで作文を“読む”指導も行いました。

これからもさらに交流を深めていきたいと思います。

課題は日程調整の難しさでしょうか。

3回開催したいところでしたが、インフルエンザの蔓延で学級閉鎖になる学校があったりとうまくいきませんでした。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<中川悠アナウンサー>

小学生への読み聞かせはこれまでも経験がありましたが、大人も含めた幅広い年齢の方に向けて読むのは初めてで、非常に良い時間になりました。

子どもが目を輝かせながら柔らかい表情でこちらを見つめていたり、大人の皆さんが真剣な眼差しで頷いてくださったり、同じ絵本を読んでも年齢や性別によってリアクションが様々で、読み手側も楽しませてもらいました。

スタジオ内で収録しているときに苦手意識をもっていた「間」や「テンポ」の変化をつけることも、会場の皆さんのあたたかい雰囲気助けられ、実践出来た場面が多かったように感じます。

<中田妃那アナウンサー>

普段対面で人の顔を見ながら読み聞かせなどをすることがないため、独特の緊張感があった。

いつも顔は見えませんが、いま目の前にいる方々に普段私はニュース等を伝えているんだという再認識する場になった。

頷きながら聞いてくれる方も多く、伝えるための自然な「間」が本番に出たような気がします。

<横山 岳アナウンサー>

視覚的情報がない子どもたちに、物語を通して咀嚼音で何を食べているのかを考えてもらう時間が印象的であった。

わかめにウインナーにりんご…。音だけで物語、情報を届ける難しさを痛感した。「りんごかあ。梨も似ているかも!」、同時に皆さんの想像力豊かな発想にも心が躍った。

作文の読み方指導では、一つ一つの言葉をかみ砕いて分かりやすく伝える事を心掛けた。児童の皆さんの飲み込みの早さ、文章への気持ちの乗せ方にただただ感心するばかりだった。この貴重な経験は私にとっても、多くの“気づき”を与えてくれた。表現について、さらに研鑽を積んでいきたいと強く思う。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

<ラジオフェスタ来場者>

- ・大勢の前でスムーズに朗読をしていて、さすがアナウンサーだと思った。

<山形県立盲学校の児童たち>

- ・いろんな動物が出てきて面白かった。
- ・アナウンサーのようにすらすら読めるようになりたいと思った。

<山形県立盲学校 鈴木彩先生>

- ・声の出し方や早口言葉などを教えていただき、普段努力されているアナウンサーさんのことを知ったり、楽しく言ってみたりすることができました。
- ・読み聞かせでは横山さんの声にみんな聞き惚れていました。